

プラスチック製ストロ  
ーの飲料用需要が低迷す  
る中、業務用大手のシバ  
セ工業(岡山県浅口市)  
が新たな用途を上げてい  
る。活路を開いたのは医  
療分野で、新型コロナウイルス  
ウィルスのPCR検査向  
けなどに需要が拡大。酒  
気帯び運転防止で強化さ  
れるアルコール検知器用  
の大量需要も見込む。同  
社は新工場を建設し、生  
産体制を増強して対応す  
る計画だ。

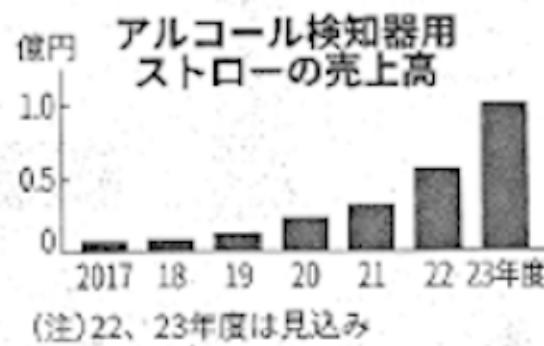
長さ7センチのストローの  
引き合いが強まっている  
。使い道はアルコール  
チェック。アルコール検  
知器に差し込み、息を吹  
き込むと酒気帯びの判定  
結果が出る。

トラック運転手らの酒  
気帯びによる交通事故が  
問題となる中で4月に道  
路交通法施行規則が改正  
された。10月から白ナン  
バーを5台以上が、定員  
11人以上の車を1台以上  
使う事業所で、アルコー  
ルチェックが義務化され  
る。

この時に使用されるス

シバセ工業、飲料用低迷で

ストロー、新用途に活路



ストロー需要を後押しするアルコールチェック

ストローをほぼ一手に手が  
けているのがシバセ工業  
だ。「災い転じて特需が  
来た」。シバセ工業営業  
部の玉石一馬部長は息を  
弾ませる。同社は専用ス  
トローの売上高目標を2  
023年度は21年度の約  
3・2倍の1億100万  
円に設定する。

もともと同社の事業の  
柱はコロナ禍前まで飲食  
の業務用ストローだった。  
19年度はタピオカプ  
ームで活況だったが、20  
年度に状況は一変。新型  
コロナ感染拡大で外食業  
が低迷し3億1400万  
円あった飲料用ストロー  
の売上高は20年度に1億  
4300万円へ急減し  
た。

環境汚染でプラスチック  
製品のやり玉に挙げら  
れるなど「衰退産業」と  
みなされる中で、同社は  
用途を工業(医療)用で  
広げる努力を続けてき  
た。20年に鼻の治療に使  
う薬剤噴霧用ノズルの使  
い捨てカバーの製造を開  
始。コロナ禍のPCR検  
査で唾液の採取にストロ  
ーが使われた。

PCR検査や酒気帯び検知

チェックを自主的に進め  
る事業者は少なかった  
が、20年4月に国土交通  
省が自動車運送事業者に  
アルコール検知器を使っ  
た酒気帯びの確認徹底  
を要請。これを契機に問  
い合わせは急増し、工業  
(医療)用の21年度売上  
高は2年前の約2・5倍  
の2億1900万円に  
拡大、飲料用を追い抜い  
た。

「アルコール検知器用  
の需要はブームではな  
い」(玉石部長)。同社  
は約6億円を投じて山陽  
自動車道の鴨方インター  
チェンジ(浅口市)付近  
に新工場(約9900平  
方メートル)を建設する。27年  
春から生産を始める計画  
だ。

プラスチック製ストロ  
ーの発色性の良さなどを  
生かして、北欧フィンラ  
ンドの伝統装飾「ヒンメ  
リ」を作るストローなど  
変わり種の製品も開発  
し、ファン層を広げてい  
る。用途を広げる取り組  
みは続く。

(田村雅弘)

中国